

自治行政局公務員部公務員課
女性活躍・人材活用推進室企画係長

安藤 弥生
ANDO YAYOI

平成 15年 4月 総務省採用
大臣官房秘書課
平成 16年 4月 自治行政局公務員部公務員課給与能率推進室
平成 17年 4月 宮崎県地域生活部地域振興課
平成 18年 4月 同 地域生活部市町村課
平成 19年 4月 総務省自治行政局公務員部公務員課
平成 22年 5月 地方職員共済組合総務部管理課
平成 25年 4月 総務省自治財政局財務調査課主査
平成 26年 4月 大臣官房政策評価広報課評価専門職
平成 27年 4月 自治税務局固定資産課課資産評価室家屋第一係長
平成 30年 4月 現 職



新たな時代の働き方を見据えて

自治体における女性活躍の推進

皆さんは、今年の東大入学式での上野千鶴子氏の祝辞をご存じですか？女子受験者を差別した入試不正問題に触れ、社会に根付く構造的な差別に目を向け、自分の恵まれた能力と環境を、恵まれない人を助けるために使ってほしいという内容です。皆さんは、どんな価値観を持って仕事を選び、どんな社会を実現したいですか？

平成27年に女性活躍推進法が制定され、自治体や企業における女性活躍推進の取組は加速しています。人口減少社会に突入した我が国にとって、女性も、男性も、高齢者も、障害者も含め、全ての人が個性と能力を発揮できる社会を構築することは、喫緊の課題となっています。その実現に向けて、男性も含めた働き方改革、性別役割分業の見直し、時間制約のある職員のキャリア形成等、様々な観点から取り組む必要があります。このため、当室では、自治体における女性をはじめとする多様な人材の活躍や働き方改革を推進するための取組を行っています。

災害時の応援職員派遣

昨年は、日本中が多くの災害に見舞われました。発災時には、避難所運営業務等に多くの職員が必要になります。総務省では、こうした大規模災害発生時に被災市区町村へ応援職員を派遣する仕組みを作り、平成30年7月豪雨や北海道胆振東部地震では、各自治体から多くの応援職員を派遣いただきました。発災当初は様々な対応に迫られる場面も多く、緊張の連続でしたが、迅速に判断する上司と共にそれぞれが求められる役割を遂行し、職員全員で乗り越えた一体感は、しびれる経験として印象に残っています。

普段は、ワークライフバランスの推進に取り組んでいますが、公務員である以上、時には最優先で臨むべき仕事もあります。その際には、圧倒的なスピード感の中で重要な仕事を任せられるプレッシャーもありますが、精一杯の努力を続け、限界にチャレンジすることで自らの成長に繋がられるのも、総務省で働く醍醐味だと思います。

Q 総務省の魅力はどのようなところだと思いますか？

A 総務省では、様々な自治体から来ている職員と一緒に机を並べて仕事をする機会が多いです。また、入省後は必ず「地方勤務」を経験しますので、その後の公務員人生の糧となる「現場感覚」が養われます。そんなわけで、総務省職員は、地方をこよなく愛する人が多く、それぞれの地域の名物や地酒を囲んでのコミュニケーションが頻繁にあります。辛苦を共にした仲間が全国各地にできることは、人生を通じた財産になると思います。

Q 入省後、成長したと思うことはどんなところですか？

A まだまだ成長途上ですが、普段から心がけていることは、「伝える」資料や説明をするということです。行政の仕事は、社会のニーズに答えられる施策を実現することです。そのためには、相手に「納得してもらう」必要があります。事実を正確に伝えること、状況を自分なりに解釈し、ストーリーを持って伝えること、相手に寄り添いながらも言うべきことは伝えること等、その時々で「伝える」説明になるよう真剣に取り組んでいます。

Private Time

休日は9歳と5歳の子供と一緒に過ごしています。長期休暇では、地元の秋田へ帰り、夏は山登りや魚つかみ、冬はスキーやかまくら作りなど、子供達と自然を満喫しています。元気いっぱいの子供達にエネルギーをもらっています(元気すぎて、ついていけないことも・・・)

